

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 114 号

平成 27 年 5 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

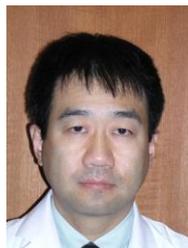
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

周術期オーラルマネージメントの重要性

外科部長 高野 学



適切な栄養管理を行うことで疾患の治療効果を上げられることは、すべての医療関係者に共通の認識事項です。高度の侵襲を加えることとなる全身麻酔下手術、特にがんの手術を行う上で術前・術後の栄養管理は必須であり、感染・廃用症候群などの術後合併症の予防、早期離床にも寄与します。とはいえ個々の医師が栄養管理に携わることができる時間は限られており、多方面からの専門的関与が必要であるため、チーム医療が必要となります。当院においては 2005 年に NST (Nutrition Support Team) を設立し医師・看護師・栄養士・検査技師・言語聴覚士をコアメンバーとして栄養管理のサポートを行っています。

平成 24 年度診療報酬改訂では周術期の口腔機能管理が保険導入されました。この目的は悪性腫瘍等の手術目的の入院患者さんの周術期口腔機能管理を事前に行うことで合併症の防止を図ることにあります。具体的には誤嚥性肺炎や人工呼吸器関連肺炎 (VAP: Ventilator Associated Pneumonia) の予防、化学療法・放射線療法による口腔領域への障害の予防、気管挿管・人工呼吸維持中の機械的損傷の防止などが期待されています。上腹部や胸部の全身麻酔の術後には痛みによる排痰喀出困難から肺炎を生じやすく、消化管を扱う際には術後の絶食期間が長いことで口腔内の自浄性が低下しさらに感染の危険性が高まります。気管内挿管中にチューブを伝って細菌の垂れ込みを生じることも懸念されます。また手術後のがん化学療法により口内炎、味覚障害・顎骨壊死等の発生を生じやすくなり経口摂取が不良となります。気管挿管の際に歯の脱臼や破損を生じる危険性が高まります。

当院には歯科・口腔外科の常勤医は勤務していませんが、平成 26 年に尾張旭市歯科医師会から周術期口腔機能管理医療連携の依頼を頂きました。これにより周術期の口腔機能管理を歯科医師会とともに本年 4 月から開始することとなりました。この連携を利用することにより癌治療を行う患者さんの口腔由来の合併症が減少していくことを期待しています。

ペースメーカーのMRI対応について

循環器科部長 水野 広海



平素より病診連携にご協力賜わり、誠にありがとうございます。

以前より植え込み型の心臓デバイス（ペースメーカー、除細動器、両室ペースメーカー）を使用している患者さんにおいて MRI 検査は禁忌とされてきました。心臓デバイス植え込み患者における MRI 検査が限定された条件下において危険を伴わないとする報告は以前より多数あったものの、合併症がないことと安全であることは同等ではないとして禁忌として扱われておりました。しかし心臓デバイス植え込み患者においても MRI 検査の要望は強く、近年限定された条件下で MRI 検査が可能なペースメーカーが Medtronic 社、St.Jude Medical 社、Biotronik 社より発売されました。

MRI 対応といっても無条件に MRI 撮像が出来るわけではありません。まずはペースメーカー本体、ペースメーカーリード、ペースメーカープログラムのすべてが MRI 対応である必要があります。また申請の際の実験データが必要なため、現在は 1.5T の MRI しか使えません。たとえ本体とリードがそれぞれ MRI 対応の機種であったとしても、本体とリードの組み合わせで許可されているためにメーカーの異なる本体とリードでは撮影はできません。

検査実施にあたっては検査直前にペースメーカーのプログラムを MRI 対応用へ変更し、機器によって可能な撮像条件で撮像、検査直後にペースメーカーチェックの上、元のプログラムに戻す必要があります。このため実際には緊急で MRI を行うことは困難であると思われます。実際にはあらかじめ予定した検査を行うことができるという印象です。

当院でも、ペースメーカーの植え込みには MRI 対応の本体とリードを使用しております。撮影についても循環器科と放射線部で共同して対応しており検査は可能です。

MRI 対応のペースメーカー植え込み患者さんの MRI 検査のご依頼の際は、一度病診連携室を通じてご相談頂けると幸いです。